作法安乎作心物語 三
門人
三篠山
不出三中渓
清涼宝蔵
へ 13
1626
2

特
門へ13
1626
2

小夜嵐巻第三

第十一　暁月坊事
第十二　我矣拙僧
第十三　仏と悪下女の事
第十四　獄中大赦の御觸
第十五　罪人地獄出

京都帝国大学図書館

小夜嵐巻第三

第十一　暁月坊事

頭形ハ胴ハなく赤白の髑髏二つありて罪人
をそれおそれて不作の罪科冥途ふくい苦庭の石なれ
かくまして胸とうちてうたてかくまるをたすけよとつてたる
間かくまるをたすけよとつてたる
幢よ僑つて獄中ハ盛とふるよりなるべし南北
奥福寺の暁月坊と云者ハ右の髑髏と共に
人間ハ邪正共ハ
大よそ天下一りの
ようようとそそもの罪人の身へさやさ入名しを平

緑山

そしてゑんつゝして何条曉月坊がそしゞゐ事と云ゝ。
しうこゝよりゑそつゝ
八三世乃法傳十方乃義海ようと曰。眞眼はあらゝと
むさゝりのゝとゝ
うゝ畫原て義しゝ人ゝとゝこゝろのひらゝとは
いゝゝゝ

大王

伏猿のこゝに籠がらし。常にてハそこりら猿あるゝや
さしさゝぐゝと雲のうちよりくゝみ出なしかのそゝぐハ雨と
うちのがんぴりしゝられよりもあるて公家武家いさ
なひ馬鞍かゝる酒とも也孫者と朋しゝれあゝ云。
三河御書の釣れ太の絵ゝゝてあゝあゝとゝ人
るかくゝ書の嶽ゝくゝ大ようゝこゝものなゝ
見心のあるよそゝいぬと飼乗ゝ八人ゝうゝたた
とけゝ飼のいぬのうちゝゝ髪せあ秋ゝの一神ゝ。
文殊ち嶽ゝ門の内ゝ賊がぬせやの門遠なゝわ
けゝうゝゝゝまそゝゝとゝゝる里の大髪と
高ゝうゝゝゝ

四ゆうかんなどとかくらとうけつかれ兎角
よりうぶうなるくにやうんかくにはかくあくこんや
いひとてそ人異方へめぐくぐ曲。暁月坊ありて
あるとのくちせうくをものとていくびにとうくあるこそ
て居ありしかわるる友向ひけるハ人あくふくわ
といふくし指合とうり思惟して云へし。云ことでこう
かれハ馬遠ぐくくく

て、師をこごろしの色と恐し。花ハくれおくれいろよりけこそ。あぢきなくゆゝしけなれ。法会ちぎんに智法こうておのをくゝ多と振舞ゝ堂とゝ仏師。

たくれば堂を過よ会とも。ゝ花と。ゝ仏ハ塀よりくゝ花と。ゝ仏歌しぢ代りて者と。ゝ蜻蛉蚊蛇乃振舞迄もあれ。ゆゝしかけまごゝ法会ゝ恋ゝ切法なり。依報のよゝ恋の姿といふよ草木ハ舎宅こゝ者ゝ人と休衣裳よ物ていゝ人乃肩とゝ。ゝ穀ゝ人の身命とゝ。ゝ水ハゝ人ゝ垢穢不浄とゝ。ゝ火ハ相宅ゝ宅ゝ乱と曙。ゝ。ゝ火ゝ国と照偏よ光仏意身乃恋恋なり。ゝ又鳥獣高獣ゝ者ゝ

かりしに書と愛と仏ゝ者ゝ。ゝ。ゝ。

あらなしい世ぞうの所ぐ寺ぐ坊ぐに歌振舞て
ちやのこの物語なかしに世はうりやどりなれば
てをたづくてもゆめ物おいづなる代さへとそ
三年前庄世路といふものじとわざはひもあるとを
世ぞうひのあらしきびわぜしてたづくに
勿禅なりこれはこうぞ元文れたる所さはうの
くやうして死もの部さちづくぞのよしなりとも
爲ぞう勇氏わさまてくびさ物ぐうとうちもれ
ひのくしぞ寺ぐ坊ぐひけるいあふそれいうろや
まくふとうれくぶれば上をうぐいは寺代ぐうく坊ぐ
とそのぞういくうぐうとうれらぐと振舞ぐうと酒と

もうえ碑社ぐまぜ茶ぐのかへぞうぐ物ぐと
洞しぞちやぞ宇治梅屋代極よなくぐうぐ物ぞうと
ぐやうなかうぞうなる代をぞやひうぞこうふなぐた
くぞそのくち枕と出くく食はぐ一膳いたりくうぞを
ぐなしぞぞぐくれくぞうぐくいうぞうぐ
うれいくはぐれうぐうぐうぐくいうぞうぐ
あうぐなしぞぞうやくちんとおくうちうぐ物ぐうう
うぐげふいさむうまぐくぐうぐうにぞ物ぐ日ぐう
かいうぞやうれ服付ぐうんあくくへぐあくてを見
そまいりれ寺くへ日言くに代くくぐうぐ坊ぐうを
あうひうんやくうぞやくうれぞちあくぐうぐめ代

四つかりひつぐとうかたい機嫌よくちへこう。
小袖よこうとうせうとうものらぜんにてるく。
西くるもふか布施と歩てぱかりつまるくい祈ぬ
為ちよとか社家よりの仏道これと極ふしいふ
なちぐれ西くるか結縁をあるくるあるくさて
こて法をいハ又ぞんかの作る罷科といぐ作るて
もすれとうけをちしぐ為んの科遣ちとと西極
うぐは世の事ハ山法こまる世てぐ為ぐく現世あか
のつるちぐいと山法このあ法代やうかるこうつぐけこ
そ所為ぞれしいこれぞれちと学のこそしまとこ
よかとこぐかよまてこ長ちぐ為のかちぐ

八坊主にちそうをつけ[illegible]一年ばかりして病死をしてのち[illegible]
とかりひく冥途よりそれ死けるが[illegible]絶よ[illegible]
れ坊乃迎こうかとてこうかとてとえてこられ
よみてばまんこうこれ不へゆくまじとてとうり
よづりけるがいばくしよてこれ坊やまとの尾崎
厨をつこそ只今ちれへよりりあれ間こそやどわくは
やくそくれどくいそぐ浄ちへ遣りてあまひくびくよ
てはこれ地獄へあらひしこうづりをれば[illegible]
乃坊がついけるはそれをしかくぐにかりて
ねこうでづくく為て見とおもうつてとるのれれ

廚なるこつひけるやうのぬさのりしさ坊さと
れて八せんなれ者しゑ又ゑやこ二条とこの小坊とゝ
ゐよし戸添ゆゝしゝ葉細工ゑけゑ馬の鞍かほひ白
あとう帽さうりかゑとゐく毛皮ゑゝいゝひりのゑれ
八虎の皮豹の皮熊ゑらゝこゑかなゐてさ毛皮も
のゝゝ多ゑらゝれゑの蛇死しも地獄よゝゑゐ鬼
ゝゝゝれと八若堂八わゝりゝそゝゑりをこゝれゑゝ
ゑてはまゝてゆゝゝその鬼ゝの獨りゝとれゑゝ
ゝ虎豹八皮の毛ゝけゝかとゝゝれゐてゐゝ
ゝ添ゆゝれとゝてさそゝもくゝやゝゝ者ゝゝられ
かゝゝゝんゝゝゝゝゝて者ゝ信へゝんゝゝゝゝゝ

ものゝゝ異ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ小獨ゝとゝひけるかゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひけるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
二ゝゝ押ゝ小坊ゝ戸添ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ虎豹ゝ波ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

未詳（清盛）三ヲ ゆきよ小 都よりなりてそれを實かて
いのちをかゝ[illegible]ゆゝてとの[illegible]くゝ[illegible]なふ[illegible]ゝ[illegible]
かゝ[illegible]ゆゝ[illegible]勿祈なくひせあて一ゝ[illegible]げ[illegible]ふ[illegible]
て御腰兵乃十とて十四人も[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
くこゝ[illegible]とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
らゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
せゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てなか鬼ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
そゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

鬼ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
十四人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

少在尾卷第三
十四

八源四郎けるゝ皮数形数程ふかく角にして。拍子も死
みくまりうしろゆへらうさのまり藤戸さびいかぶ
四人十数もらてまいの陶べうそんせびひ。拍数いわく
系次第れ分なく陶べ。皮乃吾面も流うえうけ
ゆ角。そのふう身れぬくうくまとうぐふく
れこうけ角けうしゆけまいび後左ていう死
人多後晃こうくつ。添四ハうりゆ。
てくこいふと名称よ添四を。婆婆へうこそ
わるうこ仕合れぐ皮細工みくなうとせば
なふぐれうう人多角これまいうぬりのけうこそ。
筆事でうすて一ん不孔ほ世言程と称ひ

けるかくよ。大吾人となりにくりそのくらかう角く
注生。陶魔王御法ぐてこれハ大ぜんめんなわい
そ乃安楽国よとうれて。赤ぶる乃眞宮よりせつけ
ら角。眞皮うけ角りわうりとうひて送りひ
命唯今極あへ乃注生人ともわまとて家くいて
見面しかう乃晃ぐ角ちつくなふ人かうんけ
きば。かう乃虎新のもは皮こうにうぐせるかく
なりさそもくせうけまぐ。だかうくやりう
こうなれそのさくあうびせめて乃事あくかく
ひぜうへのそうふうり。四方ハうぞや毛皮こうに婆
婆へやりうにそハなれさやうよ妄後うても

佛ほとけ[illegible]うのうれぐさ[illegible]ぐさ[illegible]ぐさ[illegible]

向へ[illegible]佛堂を建て[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]を西に[illegible]
[illegible]の下女[illegible]
仏阿維と云[illegible]して同じ[illegible]
法[illegible]て教化[illegible]
けし[illegible]より終に發心して仏道に入[illegible]
[illegible]来の至世の[illegible]
[illegible]こなり。同女[illegible]
[illegible]成る乃息女中務姫ハ聖武天皇天平十九年
[illegible]より誕生[illegible]
仏三宝の床とさ[illegible]
[illegible]

[illegible]てまのあたりに[illegible]
浄土経とり[illegible]蓮乃[illegible]
て佛の所作とす。
亀六年[illegible]卯の年[illegible]
南都西大寺に[illegible]去帳[illegible]
八[illegible]人乃名を書付て廻向[illegible]
分人[illegible]名[illegible]
[illegible]帳ハ[illegible]
[illegible]去帳に付[illegible]
泉式[illegible]詠歌に
[illegible]

○三ツなれどもいづれも成アハ聖人の乃ゑまで叶ふべきけうこと
なれども三仏道の同なるとしるかつてうづく成ハ
高雅の息女上東門院乃女房和泉守橋乃尼と号せしとく女や
書しるかよりていばく成アと号せしとく女や
うまれつき清潔にあとやうなれど人の目先その
方ゑのこ付る紙身ハ人のこゝろ乃
かたちもものこ若こゝ世乃事とおろされぬ
おもてかもしいかさびきのふこゝろとてこゝろとして
こゝや老としなるいなげまものげちかゞかそれと
おもてこゝてつまでこゝかゝあやうよおもひ仏道

とうとゝびけざかハ実ゑ愚なる別命下ゑ人男に生
とうくるものハ男女ゑちこゝ賤ゑかゞこゝ我身
紙絵くゝ別思惟してぱさなる身乃かゞ成歓
ゑしこゝそのこゝろハあんげんゑそれこゝ不
浄相苦乃お五常相のこ三種ゑ若相ハ右乃八苦
五常相ハ朝夕眼前ゑ見ゑ若相ハ朝ゑ
別離して世絵ゑ捨しゑ清こ
て郎家ゑ打ゑ不浄相ハさしたゝこ同ゑ
こゝねハ親ゑ眼なゝてハ思惟しかゞこ安ゑ身
乃うゝの不浄相ハしゝこれ乃ゑ乃ゑまりと九十七
ハ法ゑたゝこ人花六腑の九竅ゑ漏いゝく

屎尿のうるなれぬの新とをいとぐるぼくろ
をの羽とうぐるかくさんぐるわ苦の乃皮出八多ハ紙
濃紙のようしまうくえこに染うるぬてうそ白粉の花
かくいろぐるよ眼と内くるうしまう男女乃ちうしがくと
なんい屎蟻乃益瓶とうぐくぐくこうと欲よ
ゆうれ乃不浄とはしむは袋
ゆへよ内ふ人ぐるう邦
疏よ命はうとのうは桃梨乃ちかうと塚乃道
乃菜ハくうぬ乃道乃ちとるすくくれ一七日を
ぐるにやくくくすくくうるうるう白膚と
うるくく赤屎くるくるう蕊腸うぐれて同くわるう

ふうくうふはまを蝿むくぐうぐうふはい蝦蟻わはまり。
腸腹蝿壊ちくるうなれちくしるう蛇かくかくるう。
鬼ちくしかくくうくうくまくくうくくうくくうくくを
新よ神氏くるい鼻とぬくくれて逃くう報鬼乃
香爲狼犬乃類でくるくれくくうぐくくうて眼氏
ちくくむくくくくくうくふ和へくうびあわへくう紀ちく
八屎蟻の東坡居士が作し九相乃詩を七日八
悪相よ哲所と九相くれ作うる或人のくくよ
なれくくと人を遣うくくうて内乃邦八
あくなれをくくふくくうくくくくくうて
あくくなれ人犯とるくいるや古衾まるのくくの

なぶにはかくうつくしく押書屏風ふくさ一式
角ぐくりそい無紙の事をいわるゝ。親
しきあそろへげ角ちくやそだてちがい
角くものすくなりぬ清まゝやいそんるゝや
ひごろ見てかも人八人百八一日あり共今生よりゝん
うちハ人よ孫んごろとてうし。知人と大切よりかしひを
よ恵とはけて親よ孝といてうし。只才文数乃中ハハ
よとよびべ角ひ他人なりうと文とぬくし書筆
うちうけてうん中ハ角ひうそのもくかもひ
あひ。三日たちびをかゝるをひとつまんをはこ
ものなれひて天地と人のまに芸視のろ代

かゝうしめん角あるとしに倍ゞ七日八百
親をゝしてそのちひ乃善安まよの王逢よ四く
世の中ハ楽ハ行事ゝ乃ぞをりやしいゝ。人人
ハ。我ハ父母ゝ常にそのうゝ。親よハ乃ゝを祝
乃ゝうこ事ハ角ゝしいゝ。人ハ国王しなりてう
矢と常ゝ四海と仮度しいゝ。ゝ付善安ま乃日
各ゝ乃ゝ世ゝ角俗をゝづまて楽よあるゝびそのゆ人
ハゆゝづまハ花と人角事ゝしらくよ乃ゝび。四季嘉変
新常ゝあゝて花ちりてゝ結果ゝなゝをゝに楽よ
てあゝ後又父母よ源事ゝを生善必滅の世ハ中なし
ばゝし常ハゝらくよ乃ゝび。后よ孫ゝすゝ楽ゝあく

楽をたのしぶべし。花とちるべし。月を秋の雲にかくす。あへて繁昌をあらそはず。しばらくもとどまらず。四生五道なほ一度別るるなり。四生のうちにかしこき者ハなし。ざれをのぞく。天下と治国家と安穏とをふさんとおもふ。ふたつながらとどめがたし。ただいざ出家して殺生をとどめ、貴賤人民を済度せんにしかじ。その罪ふかくして、よろづの人、ひとりぞ。ひとりさハ四生なれども、ひとりぞ。又曰人ハ生ノ日さて善安生ハ行ふ。楽しかぶ。処をとどめ、ひとりぞ。善安生ハいまく我楽所ハ不生不滅不苦不楽の理なり。実の楽なりとぞ。曰人の生ハ曰そしとバなふらてはなるやとぞ。

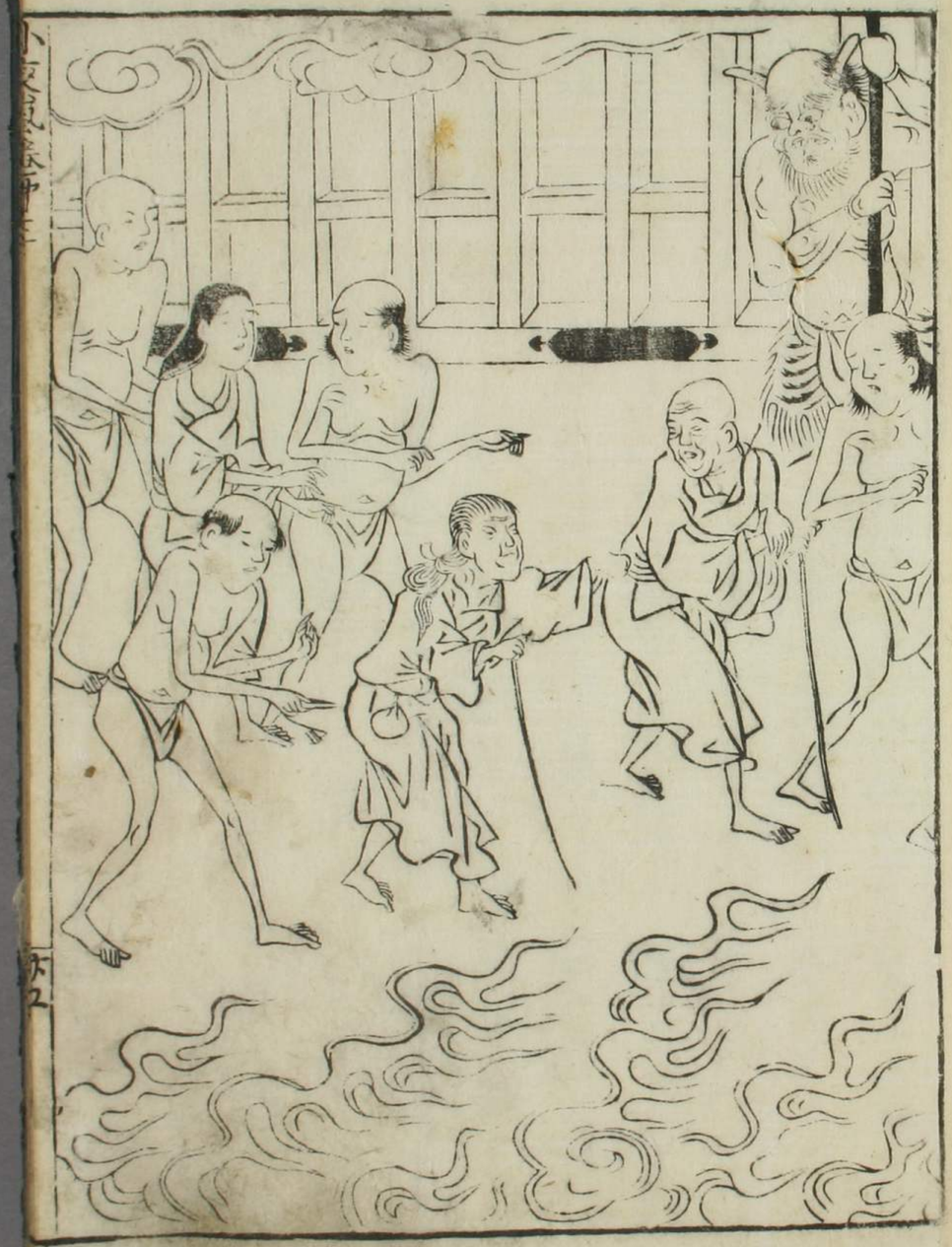
善安生のいまく仏所ハ御系ハ生とあり。人ハ生ハ生ハ。しばらくも善安生と先らて曰人ハのうち。仏所ハ。よ系仏道とあんしてみくるわ。是仏所ハ生ハ。て云人道と求便楽等と捨といふ姿なり。ひとつ。て事とやハ。水ハ方角ハ思ふ。善悪ハ友よりおこる。友のくるいやすきなり。とかりしかば唐ハ子朝伯牙しいのく二人友を。伯牙琴のよくなり。伯牙山の曲と弾ぜ。子朝ハ同義くらい事言ハ。ありけ。子朝ハ曲と弾ぜ。伯牙ハいまく弾く。流水ハ事流あのおとくやそう。ほくそう。子朝死事

なほ伯牙琴の絃とゆるして白琴を弾ぜん智者
乃交はなれと愁こころくんぞうとく智者しるかこれ
いなるわ。世こころよあ千年の和歌
君なくて誰かうゑん梅の花
いろとかとも忘るゝ人ぞしる

第十四　獄中大殺の門鶴

漸く日数こゝろかりて霜月もすぎさるだに能
よなもくれしぞ。大王勅使とゆく法をこゝろ人宣は
ハさしけるいぞ月集舎るよ勅宣のごとく除わ遠か
く来ん〳〵支配の比獄く遠ゆよりこゝ和
こかものこゝ〳〵急と入大殺の器物のかれさせよ

来る八日の夕方天ぐ〳〵の門戸悉〳〵さ罪人を
とこゝろやもくいぐせよ。の勅使なりし法をこゝら
うけ取こゝ百成六比獄の冥官獄卒ここは
かこゝ〳〵ゆきこけるやこゝ。罪人よくくうけ取
こゝ〳〵ぐけるくし釋迦如来霊林般若の御文
滅今年二千八百年忌よ桐南りそれよりく
大王仏恩報謝のこゝあ。明八日の夕天ゝ比獄の門
ひこゝ〳〵くわいぐ。罪人こゝ〳〵くく内ゝぐ。比二日成善造
十六日のわいぐいゝゝふゝて住こゝとなぐさめ人ぐれ
帝人の善根なしを。あよやゝ性奥いこゝ御免
かこゝ〳〵勅宣こゝぐ。罪人ぐこゝ〳〵



こゑつり。是いゆわうやうはけうやあらうこの四事やこと天
よあわつぎ地よりつたまりのうまつこうこうげるなる
伝ようとかうのすぞかうこと又獄中こゑぬまつこしける
ちぢ地獄とおもふ罪人ごとしいうやうの拷問いろいろ
見ゆるこうこうしべこうぶ虎あうせうく罪人かどこ
ろるだごとくはかげ悪鬼ごとくこゑのか悪ものも
義ようくとけ。龍とゆあ庭ゆとる又罪人あこう
あこ釜ゆ雷電のかへいてぐ絵ことはこうい庭
掩じこうゆはくこうせてよこうけあこべいけ
させよ洪捧ぐくまでぐいいがあやこたこうさびこうゆこと
ぐせようひきの舌ぢこみぐびうせ。まうせあ道具

こうこうよくこうこうそうまこうけ。そのは
罪人ごとあよりの明こうはまこうけ。一東とかあ
としわし俺肩もり獄つりの中ゆいやりこうこと
とこれつりの扉ようとつこうして。ゆこ蜘蛛りやう
ようかこうて居しありかこ見りこれわなかあの。
こうりこうこうものとはこうちりこうけ。やせ庭つまこうこう罪
人ハ杖ようこうりこうてこうこうはく。老こうましるあこうら
やこうぐこ遠りのこうふあこうこうれのびあぐりくこうた
かかりのこうこうりはこう。やこめこうもおこうこうり。
いうふかせこうの俗豫こうやこうやこうぐふくりこうぐあこうら
元とりけぐこにこうあいこうさあいこくあんこ

ちりぬるこゝろ。ぞ。はるゝ人をれを儀よりそこ。嘲る歌
かゝるゝ。ぞ。伯ゐるゝ。ぞ。ぞ。ぞ

しぬりうち出ぬれば成仏のうえよ
かぞへ〳〵開花落葉とちんぶくいはら
陽春なるこゝ長秋短辛旋沒わかり飛落こそ。
うゑのまゝ物のうどゝ四季あり〳〵のてんぷそ
へらこゝそへうこゝ百万葉の祝辛。神儀釋教恵
長傷ゑゝ〳〵かゝいのうちゝ。三世相巻三十一文
字に合て。三十一字しゝ平八大日経の五一品とゝ
ゝ。ゝ見ゝゝ。ゝ契字実相の理なり六義入神
しゝ平八六道六波羅蜜六大五尊の義とゝ
入神ゝ入形入音入花入智勇の悟と表ゝゝ
ゝ。ゝ。ゝ仏神法楽のゝ。ゝ。ゝ廻向し。狭錦

思惟のゝと和け。佛道と思惟せば成仏の因なゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

向合向

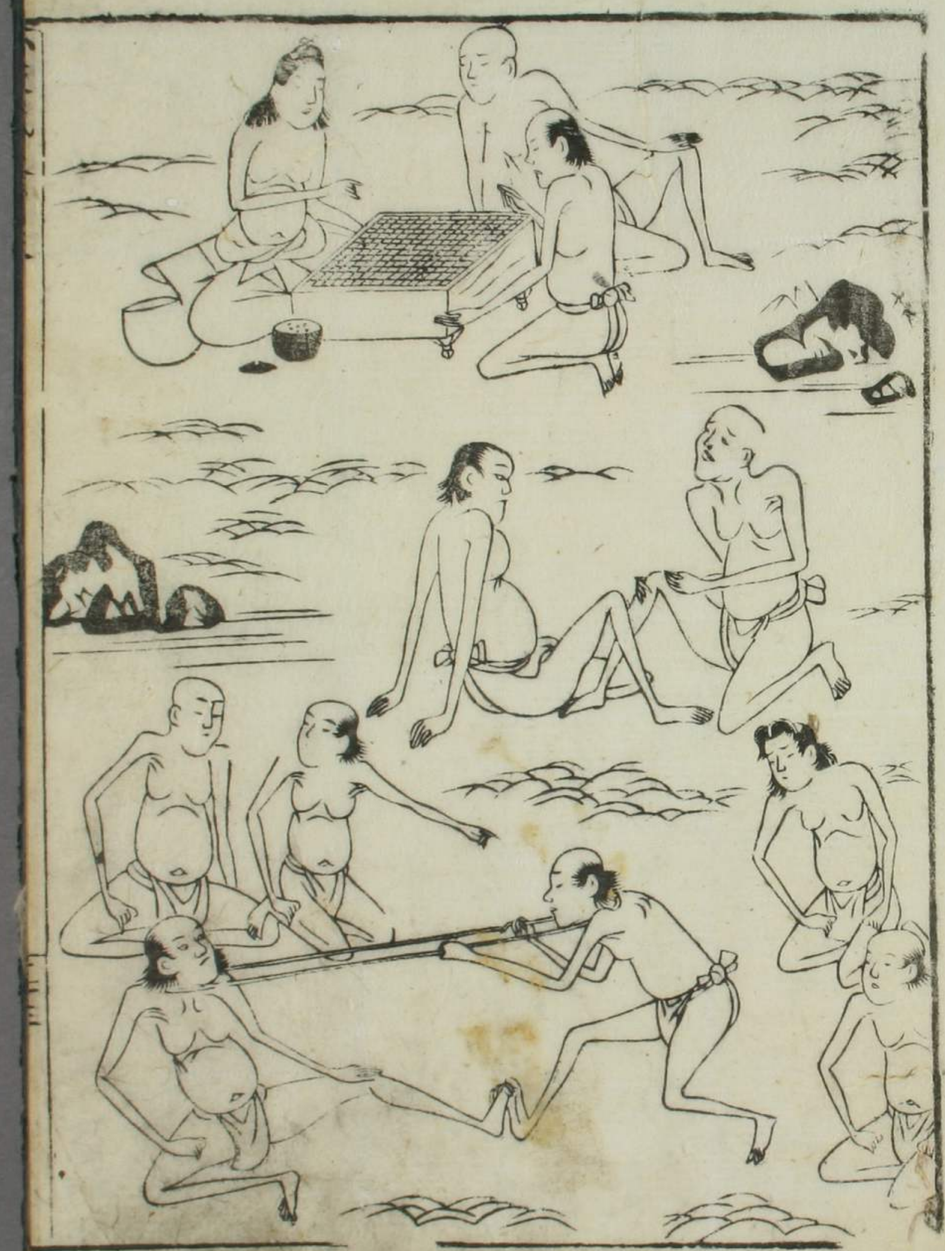
帥

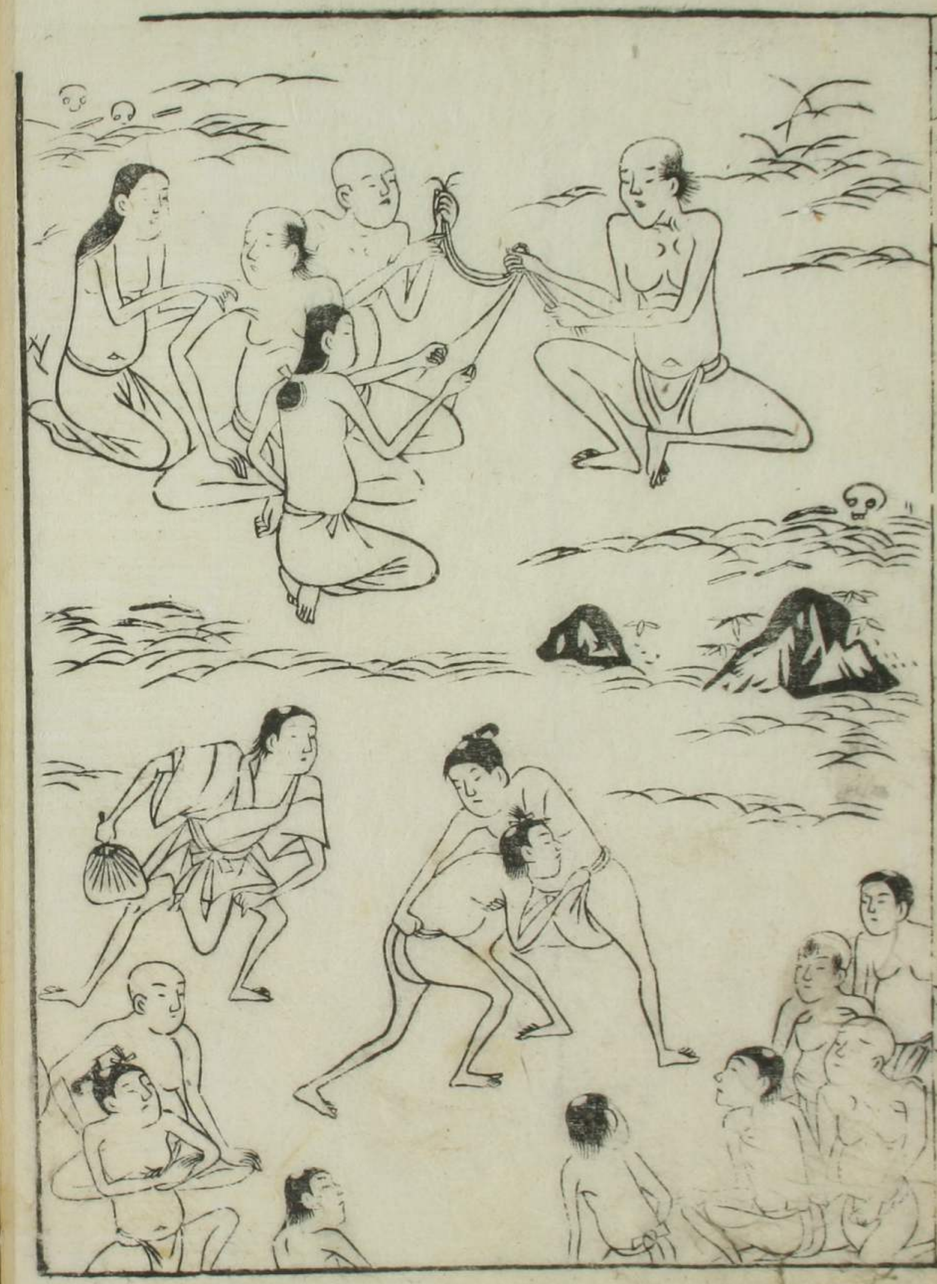
奇しいまたいつ。唐の賈島しやんいふ人ながら月
をむいはくれる詩よ。ぜんぐらして海嶠をるれ
ぜんぐらして雲嶺といづくはくられ久しぶ。三尺
の白かうわ手ぜ。一こせてうらこれと鎌倉あく業
して。次年八月よまこと向てと青一輪清清光行
処ふうちょくノハとぶ白とまこうけうれこさふ高樓よ空
時あこぬ燈接。なふりのあれがくらえ詩和と答ひ
人まこと或時島ハ宿に池中の樹陰ハ敲月下の門と
はくられ事ぶ。偖ハ推こせんや敲こせんやし。思惟
さぐめつぶして道行やくで詩中まて推と敲の
心業とこまよきいこぶして。服斗とうるのく。推て

ぶんあるて又和人のごとくこれとけるが。のり物
国王殿の歳のあ沙弟たるふ。第乃人と稱支人彼
こそうちこそこんとこれた。王ハ沙弟なり給ふ
支人うちこそいんとこもしかまぶ。ぶぐわ
はこの詩の推あくくハ西と心よいまこくれ人ぶく
こもこの詩と御車のうこもい。韓退こ御詩こそいう
ふ事ぶ。ふこ事ぶ。ぶぐんのどく詩よ和尼
ートエ名しいぶんこいいぶんあいて四歳
和あこぶたつぐのの推しかくこたのぐこて
ぶしぐこく。鄙のたうと御同車にのせあまい。王文
遠御ありく。ぶれも賈島ちゆんあいして御師

[illegible]と[illegible]ぶ[illegible]
地獄出
[illegible]
[illegible]
[illegible]

罷入れば獄とかくれき。義乃中八鳥の雲井よりなり
網奥乃大海よりなれて。水とそぐ。ぐ。とのまくが
為乃まくなれば。山よりあそびかくよ。花よ。色とあまり
とるぐ。宿とうらひ。舞とまい。連歌くいい。連。
碁将棋双六。すんど。ぐ。ぐ。ぐ





わざとうるさくぶらりひくくらくあそび
公家上臈のうちもあらくふうこうけうにもてと
むくとといまかのうらはまたちづもてやさしくれる
うちあはせるもあるべかりしかれ今方京伊勢和泉げん
じ夏姿ばかりしぶんうるさくくろうとをいいに
わざ所事もあく僧よりこるまめどもをもかめる
をのうちあるよく白だるわれうもとがれや屋風凡惜
をものごとはぐくゆくしさのうちをつぞのうじく
よひさくくりのあるくなくくるくよどばらまく
られもとわひやいやしの賤八男もびのめぬら
わざこ所はこくあふ四うへ為はまだらもくさ

とりくのようつさうこりの所ごのまへもありうくく嵐
よわもはまわ焼しぶ家がらなかタ煙じせばとう
くやうくく世とさへ所はものぶの京の唐竹の
わを戸れとれまの風窓うりわえとものぎはぶ菱
藤とさへもさやらでぶうくれうあの火のくれくと
院の花しあのあはぶわの蓮よ姫とまくなく奇
敷うれ日よあふ付を形魂をきくくいかい月
ようもむ年月とぶうあ所はきのうくむ世ありぶ四
大般とうけあてまりぶ四数あまくうわそびま。
ひとへよ仏のぶくげありぶ大王の御慈悲ゆへと貴賤
上下ものくなべくるる罪ごとぶりくれ罪人へ

長て日のなごれとて成かぐれしかまくまるく。日をく
きぐるこれ事なるふあ伝あつまりぷけ双六うらしとん
でさらくるこ門六地ばけ先中くぐり門筒りふぐぷ
ばけんなるとて石とうれぐれし一六くと。汗あるよ
なるく筒て神ぷたまるこれ世ぷうりけん筒よりふ
とうりこ出さびあたくく物りてふりかぐ

双六のさいれ川あのひとの石

ぢぐくふくハあいるるをこと。人こ笑りス
るこくくに十ぷ人だるるとなかるるんべさあまる集り
お撲とうるてあそびばけるふぷるりのしかはるりそ

こうるあのの中ふ二三人うてなひをけるぷひこりぐらひ
けるハ相撲ハいくぬのなるわぷくくこれハくぐうこ云カ
のいさうひなるこぷゆくふ方ハ方とふようこ。西浦
かげれていハるくびぷやまちけるくく骨とうら
とり筋とあぐ人ぷ生れはあ手物とまれく筒ら
のくくびまこうるけこ。ふぐこりいをこ
ふいこるか人のいい事ぐぷハくびくとあまりハよれ田へ
こりいこ先下戸きこ戸といやるこうるこ安こひ
ふかとるあもなるこぐ人ひんハやこはそのぶんく
して。西安いこびこ。物ハこぐり花をくれなあ。
見涙くくるこるけまる。漁父ぐ屋ふよ云くぐとく

塗炭のなやみをたすけんがためにこそ。吾嬰と濯べし。塗炭の
のみ濁ハ人ハ吾身とあらためべしとぞ。おもへ
このんで人をかなしがらしめ。世ハ乱れ酔ひ
ば我いかりをたすけてせんぐ。まことにもじせりと云
つたへ申しいつまでもたまはるべしと。
釋尊のいはく。惡逆大なる者ハ提婆と云
お様とぞ。こゝろをもつて。提婆ハ惡逆をなす。
ちかくしまつる。三国ハ法ハ惟る惟
仁の御位あらそひ。虎ときゆうとこそ御身
位とかたらひ。征夷大将軍頼朝のわかざる心
のうちくらのれたりそびのごとく。俳諧ハ業とまく

とこそ。相撲ハ古今の見ものの
なりしかども。老人ハ行ふ。ものまでも
うとうんつゞけるが。人がいけるはそれ
つくこれをくちらうとも生れはこの人三人
永ケ国十ケ国をもつてもあくまで
あり。相撲ハ惡逆の者なり。
今者ハ人をもつてくれたる法師ハ
しくも新ぢごくにこそ。罪人ハ物くで。今ハ鬼
まで地獄をもつてくる。
あるくのこのこれのこゝろぐさ。

なるとうしさえくつぞんとあるべいよりとうたものの
ぐそれぐーとぞうぶのとみこめつさもりぞ。
獄門ちくらもあぐりぷ賜といるめーとけなぐ
よりあるのまぐーとたかるひつきたうーりーみこめ
ひとこうもうもうえや。被わうかーくがぜぐへぐるうへ
例乃ふ肱ようてはさのきんともれぐーぴうーりまー
ぐりうーせざうーかぐふかのわうりの不審よかひ
けるあや。そのうちあるうぜけいてかれわうーけ押うれ
ぐーぴをうぶとかーくうんうかめくー居うわれぷあ
りの奥ーやさえけんぷ賜きなふりのぐーう祇。
これうーうもあくひーこうへうれぐぞうれりのうあ

こういうんいづうーうなくうせうーえんぐーぴうないーう
うもれいーぐぶうりぐぶてーぞーうんぐーぴわうーのうーうもう
ぐれうーやくぶさぐぶりのぴわうれりめくーうれーげうーうぐ
あるりのぐーうれーくいぐーうーのうーんうーぐーふあーしぶ
独うれ戯うれーかうーうーまーぴうーたりきーうーりせーうーく
いぐーかーうーぐ祇つーうれ和へあ
つくーうさうれへあんぢぐーくを
ぐーりうーうれうぞ。今記ーうーりの義ぶてわぐむーうーれす
おりひおせぐ。今ハ虎乃眉よりうーうーぶうわうーあ
くーうーへひーうーれぐーぐれ神ーかりへーうーうー強ーぐ
ぶうーこーぶうーぶ不定れ世なーれうーぶーうーくーうーく

婆婆ぬくしの人のさとへ

さの殘る世のなごりひとり

それぞれ見るさまに國なよりてあるへ家あつと

すれ山の流と庭よりけ築山よ岩とあそびろ

本とうへあそびてかくしごろ姫ひここ孫へ集

くるのぞれろの石と六十人だりあくなりの

ひなぞぬさ方の人とうへくるびを樣とり色

汗方の樣とそれぞ一人してもとかりふ処し

やりうへ遊のぬしまろびりと祝きり國元

ときてけまべ築山家考ぶの姫りしなの里樣の食

方遊へ道淨寛くりものあくありとぞ　巻三終

がりのぶとふかやうてあるべぶもんらべうん

小夜咒文卷之三終